

県上海事務所発

チャイナ通信

〇22〇

尖閣諸島問題により中国国内では反日デモが統発したのは比較的整然とした感じであった。上海市の日本総領事館前でも9月16日に約1万人、18日には約1万7千人という大規模なデモが、20代の若者を中心に行われた。

上海当局の対応は非常に組織だっついて手際がよく、デモ隊を分断するためバリケードで4力所程度に閱所を設けるとともに、街中で制御不能な事態になることを避けようと、送迎バスを市内各所で運行させ、デモ隊の動きを完全に掌握していたように思われる。

そのため、デモ隊のスローガン唱和で近辺はかなり騒々しかったが、デモそのものは比較的整然とした感じであった。上海市には日本人が約5万人駐在しているといわれている。これまで中国人による嫌がらせや暴力などの被害が数件あったようであるが、今は過剰に緊迫した空気は感じられない。

のデモ隊の様態を目にした何人かの中国人からは「大丈夫か」「困ったことがあったら言ってくれ」「嫌な思いをさせてすまない」など、思いがけない言葉も聞かれた。

その中の一人が、上海の有名な料理研究家の蔣さんだ。彼は、こうした日中情勢の中でも20日から23日にかけて当初の予定通り徳島を訪れ、徳島の料理研究家や料理長らと意見交換をし、料理教室で実際に料理を披露してくれた。

これは、徳島の食文化を中国で発信してもらいたいという本県の思いと、新メニュー開発のための素材探しや糖尿病検査とヘルシーフードへの興味という彼の

思惑が一致し実現したものだ。現在、日中関係は予断を許さない状況にあるが、両国は特に経済面において密接な依存関係にある。関係悪化が長期化しないよう切に望んでいる。(徳島県上海事務所長・山川誠)

毎月第1金曜日掲載

続く日中関係悪化

注意喚起の情報発信



県産食材を使った中華料理を教える蔣さん（右端）—徳島市南昭和町のピボット徳島